

令和7年度第1回  
さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議

会 議 録

日 時：2025年11月13日（木）午後2時開会  
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通

## 1. 開 会

### 【砂田政策企画部長】

お時間となりましたので、令和7年度第1回さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議を開催いたします。

事務局として進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局政策企画部長の砂田でございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、人口の将来展望や今後5か年の具体的な施策を示すさっぽろ未来創生プランを推進するに当たりまして、専門的かつ幅広い知見を有する委員の皆様からご意見をいただくために開催するものでございます。

ぜひ、それぞれのお立場からの幅広い観点から様々なご意見をいただけますと幸いです。

## 2. 委員の紹介

### 【砂田政策企画部長】

それでは、報告事項に先立ちまして、今年度初めての開催となりますことから、本日ご出席されております委員の皆様をお1人ずつご紹介させていただきます。

まずは、昨年度の会議におきまして、委員各位の互選により座長に選任されております北海道大学大学院医学研究院教授の玉腰暁子委員でございます。

同様に、副座長に選任されております札幌市立大学デザイン学部准教授の丸山洋平委員でございます。

続きまして、フリーアナウンサーの猪飼雄一委員でございます。

続きまして、一般社団法人北海道IT推進協会会長の入澤拓也委員でございます。

続きまして、社会保険労務士法人MIKATA副代表の大谷朋子委員でございます。

続きまして、北海道大学社会連携サークル「きづき・きずき」地域連携チームリーダーの岡田優衣委員でございます。

続きまして、株式会社北海道新聞社執行役員企画室長の佐保田昭宏委員でございます。

続きまして、今回はご都合によりオンラインにてご参加をいただいております株式会社とける代表取締役の柴田涼平委員でございます。

続きまして、株式会社C o c o k a r a代表の高橋奈美委員でございます。

続きまして、北洋銀行公金・地域産業支援部副部長の茅根伊知郎委員でございます。

続きまして、札幌商工会議所副会頭の中田隆博委員でございます。

続きまして、NPO法人北海道エンブリッジ代表の浜中裕之委員でございます。

続きまして、連合北海道札幌地区連合会事務局長の山口裕一委員でございます。

続きまして、北海道文教大学人間科学部地域未来学科教授の吉岡亜希子委員でございます。

本日の委員会は、ご出席の14名の委員の皆様からご意見を伺わせていただきます。

よろしくお願いいたします。

なお、北海道銀行法人ソリューション部地域創生室上席調査役の舟橋大祐委員につきましては、所用によりご欠席されております。

また、事前に資料を確認していただき、舟橋委員よりご意見を頂戴しておりますので、後ほどご紹介させていただきます。

次に、オブザーバーとしまして北海道庁から総合政策部地域創生局地域戦略課地域創生推進室主幹の武藤健様、石狩振興局地域創生部地域政策地域振興係長の鳴海彩様、北海道大学から産学・地域協働推進機構社会・地域創発本部特任准教授の外山大知様にお越しいただいております。

最後に、事務局でございますが、まちづくり政策局長の浅村、未来創生担当課長の田村、そして、改めまして、政策企画部長の砂田にて本日の会議の進行を補佐させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、これより玉腰座長に進行をお願いしたいと存じます。

玉腰座長、よろしくお願いいたします。

## 3. 委員による意見交換

【玉腰座長】

どうぞよろしくお願ひいたします。

昨年度はこのプランについていろいろと皆様からご意見を伺ったわけですが、本日は、その進捗を含め、ご報告をいただけるものと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、報告事項（１）の第２期さっぽろ未来創生プランの実施状況について、（２）の第３期さっぽろ未来創生プランの推進に係る取組について、事務局からご説明をお願ひいたします。

【田村未来創生担当課長】

改めまして、未来創生担当課長の田村でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

この後、私から報告事項をそれぞれご説明させていただきますが、先に配付資料の確認をしたいと思います。

次第がございまして、資料１－１名簿、資料１－２座席表、資料２さっぽろ未来創生プランの実施状況について、資料２別紙、資料３Well-being発信事業について、リーフレット１枚、資料４これまでの人口減少対策に関するモニタリング調査及び分析について、資料５持続可能な雪対策の実現に向けた取組について、資料６地方創生２．０基本構想について、最後に、資料７本有識者会議の設置要綱をお配りさせていただいておりますが、不足等はございませんでしょうか。

本日、資料７は参考配付でございますので、説明は省略させていただきます。

最初に、資料２の第２期さっぽろ未来創生プランの実施状況についてご説明をしたいと思います。

資料２をご覧ください。

おさらいですが、第２期プランは、札幌市における人口減少対策の方向性の具体化したもので、下から３段目の市民が明るい未来を描くことができる好循環の確立を目指し、令和２年度から令和６年度までの５か年の基本目標や、施策について定めたものです。

続きまして、数値目標です。

「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」の２つが第２期プランの基本目標でした。それぞれの達成度を測る数値目標として、合計特殊出生率、２０歳代の道外への転出超過数を設定しております。

下段のグラフをご覧ください。合計特殊出生率は、当初値１．１４から最新値である令和５年の数字が０．９６ということで、見てのとおり、右肩に下がっているところでございます。

参考まで、令和６年の数字は来年１月頃に国から公表される予定です。

札幌市では、ご結婚されていない方が比較的多く、結婚されていてもお子さんがいらっしゃる家庭が多いということがあります。また、お子さんがいたとしても一人っ子の割合が比較的高く、これが合計特殊出生率の低さにつながっていると分析しております。

それから、２０歳代の道外への転出超過数は、当初値が２，７００人強でした。令和２年、令和３年の新型コロナウイルスが感染拡大していた時期は数値が目標値に近づきましたが、コロナ収束以降、順次、トレンドが右肩上がりになり、令和６年が２，６５０人と当初値の水準に戻りつつあります。こちらも大変厳しい数字であると考えております。

１枚おめくりいただきまして、ここから各事業のKPIについてご説明いたします。

別紙のA４判横の資料をご覧ください。

まず、基本目標１の質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりです。

Aの「目標を達成している」としたのが２８％、Bの「目標には至らなかったけれども、改善している」としたのが１９％、Cの「当初値より悪化している」としたのが４３％、バーの未確定としたのが１０％となっております。後ほどご説明しますが、コロナの影響がかなり大きかったところであったと思ひます。それでも、達成しているものが低いことは課題であると思ひているところです。

次に、基本目標２の結婚・出産・子育てを支える環境づくりです。

Aが３０％、Bが３０％、Cが４０％です。AとBの合計は、Cより多くなりますが、一番

多いのがCという状況です。こちら後もほど細かい説明をしたいと思います。

続きまして、分野ごとの評価です。

最初に、基本目標1の質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりは大きく三つの分野に分かれておりますが、そのうちの(1)の産業の基盤づくりと競争力強化です。

別紙のナンバー1からナンバー7までがこのジャンルの指標となります。

例えば、この分野で言いますと、企業立地やバイオ産業の売上げはAですけれども、逆に、新製品・新技術の開発やグローバル化など、大きく広げていこうとする取組は、コロナの時期に大きく数値が下がってから改善していかなかった傾向にあると思っております。また、近年では物価高の影響も大きく左右しているものと思っております。

次に、(2)の働きやすい環境づくりと人材育成の確保です。

例えば、ナンバー10の女性相談窓口の新規登録者のうち、就職活動に結びついた人数は、目標値を達成していないものの、大きく数字を伸ばすことができました。

一方で、ナンバー11の市内新規学卒者の道内就職割合、ナンバー12の首都圏からの転入者数は、コロナの影響によって悪化傾向になり、なかなか目標値に到達できておりません。

次に、(3)の行きたくなる・暮らしたくなる魅力づくりです。

ナンバー13から裏面のナンバー21までとなります。

観光分野の指標が多くなっており、どうしてもコロナの影響を強く受けております。例えば、年間来客数などは大きく下がりましたが、ほぼ当初値に戻ってきておりますし、ここからまた少し伸びていくものと思っております。

観光消費額も目標値には届いておりませんが、過去最高額です。

続きまして、基本目標2の結婚・出産・子育てを支える環境づくりです。

こちらと同じく大きく三つに分けられます。

(1)の子どもを生み育てる世代への切れ目のない支援です。

こちらの指標はナンバー22とナンバー23とナンバー24の三つです。

ナンバー22の子どもを生み育てやすい環境だと思える市民の割合は、当初値から右肩下がりという状況ではないですが、数値は悪化傾向でございます。この指標に影響する要素として、子育て支援、雇用や職場の環境、教育問題など、いろいろな要素があります。特に、近年ですと、先ほどのとおり、物価高騰なども関係していると思っておりますが、いずれにせよ子育てを取り巻く環境はより厳しいものになっており、数字に影響を与えているものと分析しております。

(2)の子育てを支える地域社会の形成です。

こちらは、ナンバー25からナンバー27、再掲のナンバー22の四つの指標です。

ナンバー26の父親と母親が共に子育て担い手であると答えた保護者の割合は目標値を下回っておりますが、やや増加傾向にあります。

ナンバー25の仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合は、数値が伸びていないところを見ると、なかなか分析が難しいのですが、例えば、令和4年4月の法改正などを含めまして、家庭内における育児の役割分担などにも少しずつ変化が見られているものと思っております。

それから、(3)の子どもが健やかに育つ環境の充実です。

こちらは、ナンバー28からナンバー31となります。

こちら、コロナ禍の子どもたちの不安定な状態が出てしまったのか、当初値から数字が下がっているものが多いですけれども、この2年間は上昇傾向にあるかなと思っております。ただ、いずれにしましても、学びの充実は引き続き図っていかねばならないと考えています。

第2期プランの総括です。

結論から言うと、数値が下がっているものは下がっているのですけれども、第3期さっぽろ未来創生プラン策定時に実施した分析と、傾向としては大きくは変わっていないと考えております。つまり、非常に厳しい札幌市の状況であると認識しております。

こうした状況を受けまして、最後の段落ですけれども、これまでの取組の中でも効果が現れているものは引き続き充実強化をしていきますとともに、効果が現れていない取組については

見直す、もしくは、新たな取組を実施しなければならないと考えています。

それを踏まえ、今後の取組です。

この3月から新たなプランに基づいて事業を実施しているところです。特に、これまでの第2期プランまでの反省の一つとして、行政だけではなく、多様なステークホルダーとの協働が少し欠けていたと思っておりますので、人口減少対策の実効性をさらに高めるため、連携協働を進めてまいりたいと思っております。

一方で、繰り返しになりますが、大変厳しい状況に置かれております。後ほど詳しくご説明いたしますけれども、これまで行ってきた人口減少対策に資する取組について、改めて評価、検証を行いたいと考えております。そちらの見直しなども含め、今後の札幌市の人口減少対策の在り方について検討してまいりたいと考えています。

第2期プランの実施状況については以上です。

続きまして、第3期プランで新しく取組を進めていること等のご紹介をさせていただきたいと思えます。

資料3の札幌Well-being(ウェルビーイング)の発信事業についてという資料をご覧ください。

昨年もご議論をいただいたとおり、札幌Well-being指標というものを新たに策定し、ました。左側にありますとおり、自分らしさ、生きがいなど、六つの項目を設けて、それぞれで市民の満足度や幸福度を数値化、可視化することなどにより、市民が幸せになるための取組の強化を進めるものです。

Well-beingの向上に向けては、実際にやっていただく方の意識や行動が大変重要ですので、Well-beingを自分事化していただけるような情報発信としてどんなことができるかを考え、今、取組を進めているところです。

下段のロードマップのとおり、設定、情報発信、そして、将来的には自分事化していただいて、Well-beingの向上に向けた好循環のようなものが市民の中に巻き起こるといいなと思っている一方で、私どもとしましては主観的な指標を今後の政策の立案や改善への活用を検討していきたいと考えております。

裏面をご覧くださいまして、現在実施している情報発信です。

この10月15日にポータルサイトをオープンいたしました。そこでは、そもそもWell-beingとは何かという話のほか、今申し上げた札幌Well-being指標に関し、45問の設問に実際に答えてもらい、自身の状態について知っていただくというものがあります。

ポイントとしては、大きく三つです。

まず、今申し上げた札幌Well-being指標の数値化です。

右側の表のとおり、それぞれの六つの項目で数字が出てきて、大きい、小さいということが見えるものになります。それに合わせ、次のページに出てまいりますけれども、ドサンコやエゾユキウサギなど、それぞれの回答に合わせたキャラクターが出てくるものがあります。たしか、私はエゾタヌキだったような気がします。そして、全体をみた時に数字が低いというのはその方の中でWell-beingが低い分野があるということですので、Well-being向上のためのアクションを提示します。

最後の2ページ目の裏面です。

これは例示ですけれども、Well-being向上に向けたアクションのアドバイスがそれぞれが出てきます。

今、広報活動は、ポスターを貼ったり、チラシを配ったりしているところです。また、今月30日に、ご応募いただいた市民を対象としたワークショップを実施する予定です。そこでは、そもそもWell-beingとは何かというご説明をするほか、この取組の中でカードゲームを作りましたので、それに組み込んでいただこうと考えております。

なお、カードゲームについては貸出し等ができるぐらい数をつくろうと思っておりますので、もし活用したいというお話があれば、言っていただければ貸出しや説明のお手伝いをさせていただきます。

別紙でチラシをお渡ししております。中にQRコードもありますので、もしお時間がありま

したらWell-beingチェックをやっていただけますと幸いです。よろしく願いいたします。

こちらの資料については以上です。

続きまして、資料4のご説明をしたいと思えます。

こちらは、先ほど触れましたこれまでの取組の評価、検証ということで今実施している事業となります。

モニタリング調査及び分析について、業務委託も活用しながら進めております。

スケジュール感としては、1ページの下記のとおり、いろいろと分析し、後ほどご説明しますが、アンケートやインタビューを実施し、最終的に報告書を取りまとめ、3月に報告会を行いたいと考えています。

この報告会については業者から私たちが聞くというものではあるのですが、もしお聞きになりたい方がいらっしゃれば、皆さんにもご案内を差し上げようと思っておりますので、よろしく願いいたします。

具体的中身について、2ページからご説明したほうが分かりやすいかと思っておりますので、おめくりいただき、裏面をご覧くださいければと思います。

具体的な内容についてです。

まず、一つ目は、第1期プランと第2期プランの施策の分析です。

先ほどご説明しましたが、例えば、数値目標の変化や立てていたKPI、あるいは、主要事業でどのような効果があったのかを第三者の視点に基づいて検証したいと考えています。つまり、この施策がこういったところに反映されていた、こういった結果がもたらされたのではないかと、逆に、この事業はあまり効果がなかったのではないかと、そういったことも含め、評価、検証したいと思っております。

2点目は、他自治体の施策の分析です。

効果が現れている事業を参考にさせていただくために行いたいと思っております。

それから、これは昨年度の会議でいただいた、子育てに係る費用を見える化したほうがいいのではないかとのご意見に関わるものです。

市民の肌感覚を数値化したいということで、可処分所得、それ以外に、例えば、貯金など、何にどれくらいかかっているか、統計データがいろいろとありますので、それをまとめて、統計データからいくとこれくらいなのではないかという数字を定量的に出したいと思っております。

また、その中で、お金に係るもの、例えば、私どもが実施しているものであれば児童手当や保育料無償化、あるいは、医療費の無償化が費用増に対してどういった効果をもたらしているか、どういった機能を果たせたのか、あるいは、果たせなかったのかも含めて、ペルソナを立て、シミュレーションし、検証したいと考えております。

そういったものを含めて、これも後ほど出てきますが、最終的な施策立案につなげていきたいと思っております。

三つ目は、アンケートの調査分析です。

今、実際に市民にアンケートを取っているところですが、ポイントは大きく三つあります。

1点目ですが、例えば、10年前の希望に対し、10年後にはこういう状況になっているという結果といいますか、現実には何かしらのギャップがあったとすると、何がそのギャップの要因になっているのか、あるいは、ライフイベントの転換点にどんなことがあったのか、逆に言うと、どんなことがなかったからライフイベントがこうなってしまったのか、そういった意思決定の背景をアンケートで浮き彫りにしたいと思っております。

2点目は、子育てに係る費用の負担感、費用感です。先ほどは客観データを積み重ねた数字でこれくらいと考えるものですが、実際に感じている負担感を聞き、確認したいと思っております。

3点目ですが、若い世代と女性が今考えていること、それこそ、ライフプランやキャリアプランなどに対してどんな希望や不安を抱いているか、あるいは、女性に関して言うと、役割分担など、いわゆる壁があるのであれば、そういったものを浮き彫りにしたいと考えているとこ

ろです。

次のページに行っていただければと思います。

4点目ですが、その掘り下げとしてインタビュー調査を実施したいと考えております。そして、アンケートにお答えをいただいた方に対し、もう少し深掘りしたインタビューをしたいと思っています。その中で、なぜそうなったのか、その背景を具体化し、さらに、そのターゲットが、例えば、10年間ずっと独身なのか、あるいは、ご結婚はされているけれども、お子さんがいらっしゃる方なのか、あるいは、お子さんが1人生まれているのか、2人以上生まれているのか、その中で、ステージごとに何かあったのか、逆になかったのか、あるいは、ないからこうだったなど、そういったことが分かればよいなと思っています。

最後ですが、人口減少には大きく四つの壁があるのではないかと考えております。一つ目は、若者が市外に行ってしまうこと、それから、ご結婚されない、結婚されても遅くて、結果、お子さんが生まれるに至らない、あるいは、結婚されたとしても1人目を産むか、産まないか、最後に、1人目はいるけれども、2人目を産むか、産まないか、そういったところに壁があると仮定し、こんなことがあればその壁を乗り越えられるのではないかと検討したいと考えております。その上で、視点として、暮らしやすさなど、そういったものを参考に、今後の施策の方向性を検討するというのが本事業の内容となります。

最後に、持続可能な雪対策の実現に向けた取組についてです。

こちらは入澤委員にも審議会委員としてご協力いただいて議論・検討しているものとなります。

未来創生プランの人口減少適応プロジェクトの一つとして、持続可能なまちづくりを考えていきますということを掲げております。その中でも、今、特に私どもが危機感を持っているのが市民生活にも影響が大きく、社会経済活動への影響も大きい雪対策の見直しについてであり、今年度からさらに深掘りして進めている状況です。

改めての話になりますけれども、左側の札幌市の現状と課題ということで、人口が減っていく中で様々な分野に影響が出てくるだろうと考えております。特に、雪対策については、その一つ下にありましており、除雪従事者の担い手不足がこれから想像されます。小さくて見にくいのですが、現在、従事されている方の半分以上が50歳以上となっています。10年後はこの皆さんにやっていただけるかと思うのですけれども、20年後にこの方たちができるかという、なかなか現実的ではありません。一方で、見てのとおり、30歳未満が11%ですし、新しい人が入ってくるのかということ、なかなか難しいと考えています。

それから、雪対策費用が非常に増えております。本年度の予算が285億円で、10年前が百八十何億円でしたので、比べると約100億円増えております。このまま引き続き上がっていくとなると、将来にわたって維持することは難しいと考えます。

そんな中でも市民が将来にわたって安心して冬期の生活を送れるような持続可能な雪対策を考えましょうということで、この7月に審議会を立ち上げて議論を進めているところです。

その中では、除排雪の今後の在り方について、今申し上げた将来的な担い手不足や税収減を見据え、どういった方法でどういったことをしていくべきなのかを話しているところです。とはいっても、どうしても雪は降りますので、これから雪と共生していくため、私ども行政の役割は当然ありますけれども、市民の皆様にはこのようなことをやってほしい、あるいは、事業者の皆様にはこのようなことをやってほしいというものを掲げ、札幌ならではの暮らし方や働き方を整理していく必要があるのではないかと考えております。

そして、下段のとおり、今後10年程度の短期的な視点、それから、30年スパンぐらいの長期的な視点で検討を進めていきます。また、これを端緒に、それ以外に将来的に考えていかなければならないものの議論も並行してやっていくことを考えております。

長くなって申し訳ありませんでしたが、私からの説明は以上です。

#### 【玉腰座長】

昨年度、皆さんとお話をしたときにも、人口減少を緩やかにするという側面と同時に、人口減少に備える、人口減少に向き合うということが両方あったわけです。最後のご説明はどう向き合っていくかということでしたし、それから、人口減少を緩やかにするという点から人口減

少対策が進められていたわけですけれども、それも含め、今までの施策がどうだったのかという見直しについてのお話をしていただいたのかと思います。

ここから少し時間をかけて皆様のご意見を伺えればと思いますけれども、話が広がっていますので、まず、最初にご説明のあった第2期さっぽろ未来創生プランの実施状況について、お気づきの点などがあればいただければと思います。その上で、資料4になりますが、それを受けての実際の施策がどうだったのかという調査、分析の話につなげていければと思います。

まず、どなたからでも結構ですので、実施状況について、ここを確認したい、もっとこういうことが必要ではないかというようなことがあれば話をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【入澤委員】

ウェルビーイングのチェックについてです。

これは実際に答えてくれた方々の統計というか、今やり始めたところだと思うのですが、将来的にそれがどういう結果だったのかを公表する予定はあるのでしょうか。

#### 【田村未来創生担当課長】

まだそこまでには至っていないのですが、何区に住んでいる何歳代の男性か女性かなどは分かるので、それで分析しようかと思っています。住んでいる区によってそこまで変わらないのではないかと思うのですが、変わったら、それではどうしようかというようなことは検討できると思っています。

なお、高ければいい、低いから悪いというものでもないと思っていますので、その表現の仕方は工夫し、例えば、取組の報告という感じでやるのか、いずれにせよ、広げていくときには何かを見せなければいけないと思いますが、おっしゃるとおり、何らかの形で出していければと思っています。

#### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

#### 【吉岡委員】

それでは、資料2と別紙1について少し意見を述べたいと思います。

まず、別紙1のナンバー8とナンバー9に注目しました。基本目標1の質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりの中のナンバー8の仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合は、令和6年度末の実績値は39.8%ですが、目標値が70%だったので、Cという評価になっています。

その下に、ナンバー9として札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証企業数があり、令和6年度の実績値が1,135社で、目標値は800社だったので、Aとなっています。この二つはリンクするものであってほしかったですが、必ずしもリンクしていないのは残念ですね。

これはどのように捉えたらいいのでしょうか。認証企業がこんなに増えてくれてありがたい、うれしいことですが、実際にワーク・ライフ・バランスが取れているかということ、数値はあまり高くなっていないということで、企業の中身というのでしょうか、働き方についてももう少ししっかりと見ていかなければならないだろうとこれを見ながら思いました。

もう一つは、別紙1の裏面のナンバー22とナンバー23にも注目しました。

こちらは基本目標2の結婚・出産・子育てを支える環境づくりということで、子どもを生み育てやすい環境だと思える市民の割合が38%で、目標の80%には届かず、Cという評価になっております。

一方、ナンバー23の希望に応じた保育サービスを利用することができた人の割合ということでは84.7%の方が評価されていますし、目標値の80%より高い数字が出ていて、評価はAですが、これも一緒に考えたほうがよろしいと思います。

これだけ保育サービスを充実し、本当によく来たと思うのです。待機児童も大分なく

なっている状況です。それなのに、子どもを生み育てやすい環境だと思いう市民の割合が伸びない要因についてはしっかりと捉えないといけないだろうとこの数字を見ながら思ったところです。

もう一つ、資料2の2ページの4のKPIの分野ごとの評価の基本目標2の結婚・出産・子育てを支える環境づくりの(2)の子育てを支える地域社会の形成です。

下から3行目にありますけれども、子育てを支える地域社会の形成という枠組みで見ると、父親と母親が共に子育ての担い手であるということで、子育てを支える地域社会はお父さんとお母さんだけではないですね。地域社会ということ捉えるのだったら、どちらかというと、その2人ではなく、地域の人たちに目を向けるべきであろうと思います。父親と母親に注目するのであれば、男女共同参画など、そういう視点でのくくりになるのだろうと思います。評価をするに関し、そこにも配慮しながら分析する必要があるだろうと思います。

それに絡んで、3ページの(3)の子どもが健やかに育つ環境の充実についてです。

ここで今言ったような近所の方たちのつながりなども出ています。子どもが健やかに育つための地域とのつながりに着目していくのもすごく大事なことです、(2)と(3)をちゃんと整理しながら見ていったらいいだろうなどと思いました。

#### 【田村未来創生担当課長】

一つは、先ほど申し上げたとおり、社会を取り巻く環境になかなか厳しい面があって、サービスの提供が足りていないところもあれば、情報として届いていなかったり。やや言い訳になるかもしれませんが、子育てが既に終わった方、あるいは、子育てをされていない方もお答えになっているので、生の声とは違うのかもしれませんが、それでも、やはり低いということは社会全体としてそのように捉えられているということかと思しますので、私どもも今後の取組課題だと認識しております。

それから、KPIは、おっしゃるとおり、実態に即したものを設定する必要があると考えます。ご指摘については今後の分析に生かしたいと思います。

#### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

#### 【丸山副座長】

今の吉岡委員の質問に便乗しようと思うのですが、別紙のナンバー22とナンバー23のKPIのものについてです。子育てをしていない方も回答の対象になっているという話があったのですが、同じアンケートでの調査ですか。別ですよ。

こういう調査の結果として出てくる数値は、一つ一つは独立して意味があると思うのですが、関連性の中で解釈できるものがあると思います。ナンバー23を見る限り、保育サービスを利用するようなシチュエーションだった人たちはそれなりに満足しているのだろうと思うのです。そう考えると、ナンバー22の生み育てやすい環境だと思わない人が多いというのは、単に知らないままにいるという解釈もできますし、自分が結婚しない、子どもを産まないという理由がほかにあるのだけれども、子育て環境が悪いということにしているといえます。何か別の理由があっても、それを表に出さず、周りの環境が整っていないから自分の思いどおりにいかないという回答になっているのかもしれないなど、いろいろな解釈ができるのかなと思いました。そういう複数の指標間の関係性の中で札幌の居住者の特徴なども把握できるのかなと思います。

待機児童がゼロなのに、生み育てやすい環境ではないと思っている人が多いということも何だか解せないと思いましたので、データの使い方についてはご検討をいただけたらいいかなと思いました。

#### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

### 【高橋委員】

今のナンバー22の子どもを生み育てやすい環境だと思う市民の割合のところについてです。

私も、昨日、ここはどうしてこれだけ低いのだろうと感じ、インスタグラムで、今、実際に子育てをしている最中のお母様にアンケートを取って見たのです。そうすると、札幌は子育てしやすい環境だと思いますかという質問に対し、はいが35票、いいえが118票でしたので、この数字よりもさらにパーセンテージが低い結果でした。つまり、ほとんどのお母さんが子育てしにくいと感じていることは間違いないと思います。

そこで、その理由も聞いてみたのです。すると、金銭的な理由よりは、例えば、雪国なのに室内で遊べる無料の場所がない、産後ケアなどの出産後の助成支援が少ない、もしくは、ほかの市と比較して少ない、高いという回答がありました。また、希望する保育サービスを利用できた人の割合が高くなっているのですけれども、実際のところ、希望する園には入れていない、あるいは、自分から情報を探さないと分からないので、あまり自治体から手を差し伸べられている感じがしないというお答えがありました。ほかに、引っ越し前の地域ではかからなかったけれども、札幌では病院の初診料がかかるということがありました。さらに、冬ならではのことで言うと、前も話題に出たかと思うのですけれども、ベビーカーでの移動ですね。駅も地上に出るまでにごく難しく、迷路のようになっている、または、外に出ても冬はがたがたしている、外のお出かけがすごく難しいなど、そういった冬ならではの環境も含めて子育てしにくいと感じているということでした。

このように情報が届いていないということも大きな問題かと思うので、今後、民間事業者などと組みながら情報を届ける仕組みも必要なかなと感じています。

### 【田村未来創生担当課長】

大変参考になりました。

先ほどの除排雪の話とつながるかもしれませんが、冬の話は非常に課題だと思っています。いわゆるウォークアブルなまちづくりということで、ベビーカーでも動きやすくしていくといった取組が必要だと思います。

私の知り合いで、それこそ東京から来た人で、夏でもベビーカーがすごく動かしにくい、要は、歩道が結構斜面になっているということがありました。当然、本州はそんなことはないのです、非常に動かしにくいということです。とはいいながら、なかなか難しいなと思って聞いていたことを今思い出しました。

それから、おっしゃられたとおり、初診料の話や希望する園の話です。待機児童数は、国の基準では確かに0人ですけれども、全員が全員、希望した園に入れるかということ、確かにそうではないということは私たちの課題の一つだと思っています。

また、産後ケアの話ですね。拡大しているところではありますけれども、引き続き取り組んでいく必要があると思っています。

### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

### 【茅根委員】

今の意見にかぶせてですけれども、例えば、ナンバー22の子どもを生み育てやすい環境だと思う市民の割合は、アンケート調査をするとき、子どもを生みやすい環境ですかという聞き方をしているのでしょうか。

というのは、これを見ると、高橋委員がお話しされたとおり、具体的にこういうところが困っている、届いていないなどという話があって、ただ、子どもを生み育てやすい環境という字面を見たとき、自分のことに置き換えると、そういう環境とは何のことか、ぱっと分からなかったのです。分からない状態の聞き方でKPIを設定しているのであれば、多分、KPIは一向によくならないのかなと思ったので、もう少し具体的に分解したヒアリングの仕方をしたほうがいいのかということでした。

似たようなものがほかにもあって、ナンバー25の仕事と生活の調和がとれているというものです。調和が取れているとは何かということで自分に置き換えたのですが、私は、はいともいいえとも言いづらく、ちょっと漠然としているなと思いました。これがもう既に具体的な聞き方をしていて、集計上このようになっているというのであればそれでよいと思うのですけれども、これだけだと見えなかったので、聞いてみました。

#### 【田村未来創生担当課長】

一つ目のご質問についてです。

設問としては、あなたは札幌市が子どもを生き育てやすい環境にあると思いますか、当てはまるものに一つ丸をつけてくださいとしております。そして、そう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない、分からないという選択肢に分けております。

もう一つの仕事と生活の調和は取れていると思う人の割合も恐らく同じです。市民意識調査という例年やっている調査の中で拾っているもので、そういった聞き方をしているかと思いません。

ただ、ご指摘のとおり、設問の仕方というか、聞き方については工夫する必要もあるかと思えます。例年のものを変えるかどうかということはあると思うのですが、少なくとも、今回のモニタリング、あるいは、来年度以降に拾うときにはいただいたご意見を参考にさせていただきたいと思えます。

#### 【玉腰座長】

特に、今、企画されているヒアリングのほうにつながるとういかなと思いました。  
ほかにかがでしょうか。

#### 【大谷委員】

吉岡委員がおっしゃっていたナンバー8の生活と仕事の調和がとれていると思う人の割合は横ばいだけでも、札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 認証企業数はすごい勢いで右肩上がりになっているということについて、ギャップがあるといえますか、つながっていないのは非常に気になりました。

ふだん、特に中小企業に向けて両立支援などを導入している者としては、この認証は非常に使いやすいものではあると思っています。国も、くるみんのほか、女性活躍のえるぼしといった認証を設けているのですけれども、中小企業からするとハードルが高く、道内でも取れている企業は増えてきているものの、そんなに多くはなく、特に中小企業にとっては難しいと感じています。

それに比べると、このワーク・ライフ・バランス Plus 認証は、ステップ1からステップ3まであるのですけれども、一定程度、法律を遵守していれば取ることができますよね。また、次世代や女性活躍に関する行動を定めればステップ2が取れます。さらに、法律を上回る制度を入れていたらステップ3が取れるわけです。

このように、ステップ3が最高位ですけれども、そこまでハードルが高くないステップ3まで取ることができまして、初心者向けといえますか、中小企業が入り口として見るにはすごくいい認証なのかなと思っています。そこから一歩進んで、実際にワーク・ライフ・バランスが本当に実現されるかを見ていけるよう、もう少しレベルアップができるとういかなと思っています。

例えば、国のものではプラチナくるみが創設されるなど、次を見据えていこうというような動きがあるので、それがあっていいということです。

加えて、ナンバー12の20歳から29歳の首都圏からの転入者数です。

これは、結婚や子育てのほか、自分の生活について考えてみたいという年代の方が札幌を選ぶかどうかだと思うのですけれども、札幌に戻ってきたいというUターン希望の方、または、Iターンであっても、札幌は非常に魅力的な土地だと思うのです。希望している方は多いと思うのですけれども、それが実際に結びついていないとしたらどうすればいいかです。

私の専門から言うと、柔軟な働き方ができる会社がまだ札幌は少ないなど、いろいろと考

たのですけれども、転入を希望していながら来なかった人はどうして来なかったのかという理由を聞いてみたいと思っています。どうやってそういう人たちを拾うのかは難しいと思うのですけれども、そのようなことを感じておりました。

**【田村未来創生担当課長】**

特に、2点目の話は私たちも課題としているといたしますか、それこそ、アンケートやインタビューは札幌市内にいる方には比較的取ることができるのですが、東京の方や札幌市と接点のない方はなかなか難しいと思うので、東京でもいいですし、どこか別のまちでもいいのですけれども、大きなまちで何かできることがあるといいなと思っていますし、考えてみたいと思います。

**【玉腰座長】**

申し訳ありませんが、今日は、柴田委員が途中で退席されるということですので、ここまでのところでご意見があればお願いいたします。

**【柴田委員】**

本日は、オンラインで1時間しか出席できず、申し訳ありません。

20歳から29歳の首都圏からの転入者数が3,684人に対して、転出数が2,650人ということで、客観的にはポジティブにもネガティブにも見ることができるのですが、なぜ転入してきてくださったのか、なぜ転出してしまったのか、もう少し具体的なところが見えてくると対策の打ちようがあるなと思いました。

例えば、学生の皆さんは、道外から来てくれたけれども、札幌の企業との接点がありません、結局、就職活動で道外の会社に就職してしまうということが20%ぐらいを占めるのであれば、札幌の企業と学生の接点を増やそうという具体的な対策ができるのかなと思います。ですから、転出者2,650人はどういった理由で外に、転入者3,684人はどういった理由で札幌に来てくれたのか、それをもう少し知りたいなということです。

もう一点、ウェルビーイングの45のチェックリストをやってみました。私は、キャラクターとしてドサンコだったのですけれども、皆さんもぜひやってみてください。

その中で、この指標をどう使うかは先ほど入澤委員におっしゃっていたとおりだと思いましたが、活用の仕方は要検討だなと思いました。ただ、設問項目の多様性です。自分自身の回答なのか、そこへの空気感に関する回答なのか少し分かりづらくて、回答するときにスムーズにできず、止まってしまったのです。それが離脱になるか、主観的情報を取れず、有意義なデータにならないかのどちらかを誘引してしまう可能性もあると思いました。今回はもう走っているのだから、次回以降、多様性という設問を設ける際には、そこを見直していただくとさらにいいかなと思いました。

変わらず若年層へのアプローチを道内外でしていますので、力になればと思っています。今日はこのあたりで失礼させていただきますが、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。皆さん、ありがとうございました。

**【玉腰座長】**

それでは、ご欠席の舟橋委員からご意見をいただいているということですので、お話をいただいた後、また討論に戻りたいと思います。お願いいたします。

**【田村未来創生担当課長】**

舟橋委員からいただいたご意見でございます。

数値目標である合計特殊出生率や20代の道外転出超過数に着目すると、下降トレンドが続いており、これまでの施策が機能していないように見えてしまう、モニタリング調査や分析において数値目標に対するKPIや各事業の結びつきの明確化、主観的指標のさらなる有効活用の検討、検証を行って、人口減少対策の効果をより正確に評価できる仕組みを確立できると今後の政策立案や計画策定に当たって有意義ではないかというご意見を頂戴いたしました。

札幌市として、まさにそのとおりだなと思いましたし、頑張ろうと思います。

**【玉腰座長】**

それでは、戻って、猪飼委員、お願いいたします。

**【猪飼委員】**

先ほど大谷委員からナンバー9の札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証企業数とナンバー8の割合のギャップの話があり、ハードル設定についてのお話があったかと思います。ちなみに、認定されている1,135社の企業にナンバー8の質問をしたら相当高い数字になるのが普通なのではないかと思うのですが、そういう数字ではないわけですよね。でも、多分、認定されている企業こそ、この数字は高くなるべきだと思うので、そういうところからも何でこんなにギャップがあるのかがもっと分かるのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

**【田村未来創生担当課長】**

そういう取り方はしていないのですが、冒頭に申し上げたとおり、今のワーク・ライフ・バランスをはじめ、私たちが先頭に立ってリーダーシップを取り、やっていかなければいけないという自覚はあります。その一方で、企業の方々にもついてきていただくという言い方はよくないのかもしれませんが、一緒に取り組んでいただくことが多いのかなと思っております。その中で、ワーク・ライフ・バランスplus認証もそうですし、それ以外のところでも連携していき、実情などを確認できればいいのかなと思います。

札幌市全体の課題でいうと、男性の長時間労働はほかの都市よりも多いということは昨年度にもご説明したかと思いますが、それに伴って男性の育休の取得率も低いほうだという数字が出ています。制度をなかなか使い切れていない、活用し切れていない労働者や会社もあるということですので、どこに課題があるのかを浮き彫りにできるように、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

**【中田委員】** 今のナンバー8とナンバー9の件で思い当たる節があります。

例えば、ナンバー9の札幌市ワーク・ライフ・バランスplus認証企業数が100以上増えているということについてです。札幌市も積極的に働きかけているということもあると思うのですが、商工会議所でも、会員企業に対し、この認定を積極的に取っていきましょうという動きがありまして、そういったいろいろな団体に呼びかけている成果が数字に表れているのかなと思いました。

ただ、その割には、ナンバー8のバランスが取れていると思う人の割合がそんなに変わっていないということですよね。企業が取ったはいいけれども、社員の方はあまりそう感じていないというギャップがあるのでしょうかし、取ってからまだ日もたっていないので、今後、それが浸透していき、その割合が上がるということを期待したいという思いでおります。

**【玉腰座長】**

状況のご説明をありがとうございました。

山口委員、お願いします。

**【山口委員】**

今、中田委員からお話があったことと共通するところがあるのですが、私ども労働組合の加盟組合にも札幌市の施策の一つのワーク・ライフ・バランスplusの認証を訴えています。なおかつ、ワーク・ライフ・バランスというのは仕事と生活の調和だと思うのですが、それを職場で実践していく環境を並行してつくっていくということが必要だということで、会社交渉の中でも訴えていきたいと思いますという取組もさせていただいています。

この前もワーク・ライフ・バランスplusの認証制度の構成組織のチラシも改めて配り、会社としてこれに取り組んでいくのだ、実践していく、取組を具体化させることにつなげてい

かなければならないと話をしたところです。

ナンバー8とナンバー9の実績値は、今度は職場の段階でどれだけ具体的にワーク・ライフ・バランスの取組がなされていくか、具体的に子育てに絞れば、男性も女性も育児にきちんと参加すること、また、子育て以外では長時間労働の是正が一番大事だと思うのです。しっかりと勤務時間に働き、勤務時間以外は生活につなげていくのだという切替えも含めた環境をつくっていくということですね。勤務時間を守るということは生活の環境を守ることにもつながると思っています。

なお、認証企業の発信はすごく大事だと思いますし、拡大してきたのは札幌市の皆さんの力だと思っています。

また、会社でどういうことができるかという具体的な中身ですね。求めている会社の皆さんには当然ですけれども、こう進めてはいかがかという具体例も含めて示すことも必要なのかなと感じております。

#### 【玉腰座長】

小さい企業でいろいろなことをやっていただいても、面で見るときにはまだまだ足りていないということもあるのかなと思いますので、どこを重点的にやっていくか、あるいは、どういう方たちに届けなければいけないのかを見ていただけるといいのかなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【岡田委員】

初歩的な質問になるかもしれませんが。見つけられなかったのですが、KPIの設定の仕方についてお聞きしたいと思います。

KPIの目標値とそれに対する評価に目がいってしまうのですけれども、KPIは前年度のものを参考にして立てられたのか、それとも、同じような人口のエリアと比較したときにこのぐらいの目標値を目指すとしたのか、どういうふうに目標値を設定されているのか、お聞きしたいと思います。

#### 【田村未来創生担当課長】

目標値は第2期プランを策定した令和元年度末に設定したものです。そのタイミングでそれぞれの事業を所管している部署として5年がたったらここまでいけるのではないかと、ここまでいきたいということで立てている数字です。

#### 【岡田委員】

それぞれのところの状況なども反映しているのですね。

気になったのはナンバー27の子育てについての相談件数です。

実績値がいい数字になっていて、Aという評価ですけれども、これがいい数字であるという判断は難しいなと思ったのです。例えば、子どもを生み育てやすい環境だと思う市民の割合がCであることを考えると、もしかしたら相談件数はもっと多くあるべきなのかもしれないと思ったのです。

前年度の数字を基にしているのか、それとも、これだけの子育て世帯がいるということからこのぐらい上がってくるのではないかとということに基にしているのかが気になった次第です。

#### 【玉腰座長】

目標値の設定は本当に難しいと思います。今回進めていращやるものでは、どういう理由で設定したのかということきちんと記録に残し、比較するときに分かるようにしておくことは大事だと思いましたので、よろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【高橋委員】

ウェルビーイングについてお聞きします。

実際に私もやらせていただいたのですが、その中で、家族や地域とのつながり、職場での関係性などは設問事項にあったのですね。でも、子育てしている世代、産後のお母さんの実態をはかるような項目は特になかったかと思います。これは、子育てにかかわらず、介護の時期や学生など、ライフステージ別の内容は特に反映されておらず、幅広く設問がつくられているのかなと感じました。

でも、実際のところ、子育て世代の方は自分の時間をつくれないうし、生活の質が大きく変わる、揺れるような時期であり、幸福度が揺れやすい時期なのかなと感じましたので、ライフステージ別で詳しく見ることができると、この数値がより分かりやすくなると思いますか、実際の数値に近づいてくるのかなと感じました。

#### 【田村未来創生担当課長】

基本的には、皆さんにお答えをいただくといいますが、この世代、この状況に置かれている人でないと答えられないというものはできるだけ避けるようにつくったということがまず前提としてあります。その上で、最初に年齢や性別を入れるという話をしましたけれども、設定の中でこの人にはこんな質問を聞いたらいいいということをしてAIか何か判断してくれるようになると、よりリアルになるのかなと今聞いていて思ったところです。

今のシステムにはなかなか難しいかもしれませんが、次の段階はひょっとしたらそういうことなのかなと思って聞いていたところです。どこまでできるのかは分かりませんが、改修できるタイミングがあったら考えてみたいと思います。

#### 【玉腰座長】

この指標がどういう目的で使われるかに依存すると思いますが、性、年齢以外の情報を最初に取りつりであれば、この状況に当てはまりますかぐらいのものが幾つかあって、そこをチェックするというのも一つの方法かもしれないですね。入り口としてはそんなことがあるかと思いました。

話が先に進みそうですので、ウェルビーイングの話について何かお聞きになることなどはありますか。

#### 【浜中委員】

ウェルビーイングの熊がホッキョクグマになっているのは、やはり、熊は外そうという議論があったのでしょうか。

#### 【田村未来創生担当課長】

ホッキョクグマは、もともと、円山動物園で一世を風靡しましたので、いいかなと思ったからです。

#### 【浜中委員】

質問に入りますね。

ウェルビーイングの話も少し入ってくると思うのですが、質の高い雇用創出といったとき、難しいなと思いながら聞いておりました。誰にとっての質の高さなのかということですね。今挙げられている指標を見ますと、ある種、産業界から見たときの質の高さはこれで測れそうだなという印象はあったのですが、これから働こうとする若者が雇用を求める質と捉えると、この指標だと取り切れないのではないかという印象を持ちました。

そこにウェルビーイングの指標が入ってきて、こういう会社はウェルビーイングが高い人たちが働いているというようなことが見えてくると、雇用の質が入ってくるのではないかと思います。質をどのように捉えているのか、お伺いできたらいいなと思いました。

#### 【浅村まちづくり政策局長】

未来創生プランだけではなく、我々がつくっている総合計画であるまちづくり戦略ビジョンでもこういうものを挙げていますが、質の高いということについては我々の中でも随分と議論

してきました。しかし、非常に多義的なので、どうなのだろうという話があります。そして、それを分解していくということも重要です。高賃金や生産性が高い、もしくは、満足度が高いというのは経営側にとってもそうですけれども、働く側にとってどういうものが質が高いのかというとき、また別の側面があるはずなのです。

ほかの指標もそうですけれども、多義的な質問を指標にしているものは捉えづらいということで、それについては分析を重ねていく必要があると思っています。

**【浜中委員】**

これは前回の議論でもあったかもしれないですけども、賃金が上がっているかという指標を入れていただければと考えています。働く側として、高賃金である必要はないと思うのですけれども、上がっていているという感覚があるかどうかは結構重要かと思うので、今後、ぜひ入れていただけたらと思いました。

**【玉腰座長】**

ほかにウェルビーイングについて何かありませんか。

**【岡田委員】**

質問というか、感想も含めて発言します。

こういうアンケートは、若者が回答しにくい中、はやりの分類診断のようなものを取り入れてやっていて、大学生なども回答しそうだなぁと思いましたし、素晴らしいなと思いました。

このアンケートの目的は、数字を回収するというより、どちらかという、ウェルビーイングについて、自分の幸せについて考えてもらって発信する機会にするということに合っていますか。

**【田村未来創生担当課長】**

そのとおりです。先ほど言いましたとおり、もちろん高いにこしたことはないのかもしれませんが、それで終わりという話ではなく、おっしゃっていただいたとおり、知ってもらうこと、自分の幸せがどこにあるのか、あるいは、周りの人の幸せがどこにあるのかを感じる中で、日々の生活をこうしていったらいいのではないかと、日々の満足はこういうところにあるのではないかと、自分の中で具現化していくのが大事なのかなと思っています。

**【岡田委員】**

カードゲームのような方式にすることなども含めて、ウェルビーイングという言葉が広がって当たり前になっていくことにはかなり寄与しそうだなぁと思ったので、素晴らしいと思いました。

**【玉腰座長】**

ほかにいかがでしょうか。

**【大谷委員】**

このウェルビーイングチェックはやらせていただきました。私はエゾフクロウでした。

ロードマップもあるので、これからどんどん進めていくものだと思うのですが、自分の数値が低かったものに対し、こういうことをしてみようというアクションが提示されますよね。ここにあるとおり、内容が文章でぼんぼん出てくるのですけれども、札幌市にこういう事業があるので、ぜひという感じでほかに広がっていくといいのかなと思って見ていました。今はウェルビーイングのページだけで完結してしまっているの、次につながるというところが弱かったのかなと思いました。

ウェルビーイングは、やはり、個人の感覚になるので、個人向けのものなのだろうと思うのですけれども、生きがいや安らかな毎日というのは経済的な不安がない、あるいは、先ほども出ていましたとおり、質の高い雇用、働き方がどうかにつながるものなので、個人だけではな

く、札幌の企業に向けても行い、札幌ウェルビーイング経営を目指しましょうというようになつながらできるといいのかなと思います。

**【玉腰座長】**

コメントのところについてはいろいろと検討の余地がまだあるということかと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

ほかにかがでしょうか。

**【丸山副座長】**

先ほどご説明をいただいた際、高いほうがいいとは限らないなど、人それぞれである部分もあると思うのですが、政策として利用する場合、やはり、量的に把握し、変化としては増えることが達成目標になるということによろしいですか。

**【田村未来創生担当課長】**

まだ具体までは至っていないのですけれども、低い項目があるのであれば、そこにどうアプローチをするかということかと思ひています。もちろん、高いにこしたことはないと思うのですが、何かしらで低いものがあるのであれば、それを行政の力で改善する、上げられるものであれば上げていくということが一つなのかなと思います。

**【丸山副座長】**

こういう幸福度やウェルビーイングの話は、元はブータンからあって、国民総幸福量といいまして、グロス・ナショナル・ハピネス—GNHだったかと思ひます。量的に把握し、札幌市民の全体としての幸福度、ウェルビーイングが低いか、高いか分かってくると思うので、それはとてもよい着眼点になると思ひます。ただ、そう考えると、ある程度のランダムサンプリングをし、回答を求めないといけないのかなと思うのです。自発的に回答する人だけだと駄目で、多分、幸福度のとても低い人はやらないような気がするので、アプローチの仕方について具体的にお考えになっていただけたらと思ひました。

**【玉腰座長】**

今のお話の続きで、先ほどご説明をいただいた資料4のモニタリング調査と分析のところに入りたいと思ひます。

これは今やっているもの話ですけれども、この先、定時的に取っていくアンケートの中にウェルビーイングを入れ、無作為抽出でやっている調査の中で確認するというのも一つの方法かと思ひますので、ご検討ください。

それでは、今までの第2期の施策に対し、どうだったかということで、モニタリング調査と分析を計画し、ご説明をいただいたわけですけれども、ここについて確認事項やご意見があればお願ひしたいと思ひます。

いかがでしょうか。

**【中田委員】**

確認ですけれども、このモニタリング調査でのアンケート数はどれぐらいを目指しているのか、また、具体的にどういう場面でやっていくのかを教えていただけますか。

**【田村未来創生担当課長】**

まず、サンプリング数は3,000人を集めようと思ひています。世代、年代がある程度一定になるように、トータルで3,000人としています。

また、集め方ですが、基本的にはウェブ回答で、札幌市の公式LINEに載せ、回答をいただくほか、企業が持っているモニターの方にお答えをいただき、数をそろえようと調整しているところです。

【吉岡委員】

大規模な市民アンケートと深掘りのインタビュー調査ということで、非常に期待したいと思いつながら見ておりました。

その中で、リクエストといたしましては、お伝えしたいことがあります。

2 ページのⅡの子育てに係る費用の経年変化の整理・分析です。

費用の見える化を目指すということで、どれぐらいかかるのかがよく分からなくて、本当は子どもを二人、三人というイメージがあるけれども、1人という方もいらっしゃるのでは、とても大事だと思います。札幌での子育てはこれぐらいで大丈夫だと背中を押すような内容になったらいいと思っております。

次ですが、Ⅲのアンケート調査・分析のところ少し気になるものがあります。

例えば、(3)は若い世代(未来軸)、女性(ジェンダー軸)となっております。若い世代ということで、性別に関係なく、いろいろな方たちからアンケートを取られるのだらうと思うのですけれども、なぜ女性だけなのかは気になることです。

札幌の特徴として、20代になると、女性のほうが多くなりますよね。男性は、高校まではいるけれども、出てしまうということがあるので、男性にもしっかりと聞いてほしいと思います。例えば、高校生の若い人たちにどうして札幌を離れてしまうのかということも含めて、あるいは、20代の男性と女性の両方にしっかりと聞き取りしてほしいと思っています。

女性だけというのは気になりますし、20代の若い人たちの働く場のことについても委員の皆さんからご意見が随分と出されましたけれども、そこが足りないのだらうと思うので、そこに切り込んで、若者の声をここでしっかりと示さないと未来を語る時に難しくなっていくのだらうと思われましたので、ぜひリクエストしたいと思います。

【田村未来創生担当課長】

実は、この後に出てくるので、先取りになってしまうのですが、資料6をご覧ください。

国から地方創生2.0という基本構想が今年6月に出たのですけれども、1ページを見ていただくと、今回、国でも若者と女性に選ばれる地域づくりを掲げています。それを受け、これでも若い世代と女性をピックアップしました。

男性も含めてということだとは思いますが、ここに書いてあるとおり、この基本構想を受け、女性が思っていることをもう少し浮き彫りにしたいという意図もあって、このモニタリング調査でもそういった形にしたということです。

ただ、これがスタンダードというわけでもないと思っておりますし、これからずっとこの形で実施するわけでもありません。毎年実施できるかどうかは、予算の都合もあるので、何とも言いえないですが、別の機会に今のご意見も含めて考えていきたいと思っております。

【吉岡委員】

国として若者や女性と位置づけているということは分かるのですけれども、札幌の状況を考えると、現実問題、20代は女性のほうが多いわけですよね。ですから、国がやっているからそのままということではないと思います。恐らく、過疎地域といいますか、農村地域だとすると、後継ぎの男性がいて、女性がなかなか少ないということだったら、これが当てはまるのかしらとイメージするのですけれども、そういうことですか。それは分からないのですけれども、札幌に即してやっていくことが大事なのかなと思います。

もう一つ、質問です。

地方創生2.0は、高市総理になって、地域未来戦略本部を立ち上げ、衣替えするというような報道もありますけれども、どういう位置づけで考えていけばいいのですか。

【田村未来創生担当課長】

この後、ご説明をするのですけれども、おっしゃるとおり、国の動きが変わってきそうということが大分見えてきました。最初に皆さんにご案内したときはこのままいくのではないかと思っていたのですけれども、どうもそうではないのではないかとこの1日、2日で随分と見えてきましたので、こういったお話がありますというように聞いていただくといいの

かなということで、最後に少しだけ触れようかと思っておりました。

**【玉腰座長】**

まだ残しているものがあるので、そちらが終わったらご説明に移っていただきたいと思います。

ここについてほかに追加で何かございませんか。

**【丸山副座長】**

今の流れになってしまうのですけれども、吉岡委員のご指摘のように、やはり男性の調査をやっていただきたいと思いました。重ねの意見になって申し訳ありませんが、よく大学の統計の授業でもやるのは、女性のことを知りたいからといって女性だけを調べても女性のことは何も分からないと言うのです。比較対象がないと分からないわけで、男性も調べていただきたいと思います。

もう一つは、Vの施策の方向性の検討の(1)のペルソナ設定に第2子の壁を四つの壁の一つに挙げられているのですが、これがどういう趣旨であるのかを伺いたいと思いました。

というのは、国立社会保障・人口問題研究所が出生動向基本調査をやっている、就業継続の状況を調査しているのですね。女性に対してやっている調査ですが、結婚、第1子出生、第2子出生、第3子出生と分けていて、第1出生時点での就業継続が明らかに低いのです。それは改善されているけれども、低いままなのです。それに比べ、第2子出生となりますと、就業継続率がかなり高く、9割を超えているくらいで、壁と言うほどではないのかなと思ってます。

それは、第1子を出産して、就業継続をすることができた方が第2子出生後に就業継続か否かという話になっているので、サバイバビリティの話が出てくるのだと思いますが、あまり明確な壁にはなっていないのかなという印象もあるのですね。それについてはどんなイメージでいらっしゃるのか、お聞きしたいです。

**【田村未来創生担当課長】**

私の説明がよくなかったかもしれないのですが、このイメージは、冒頭の合計特殊出生率の低い原因になったというところでご説明したかもしれません。札幌市の家庭の状況として第2子以上が少ない、要は、ご夫婦がいて、お子さんがいても一人っ子が都市部の中でも比較的多いほうだというお話をさせていただきました。お金の話もさることながら、2人目を生むことに対してのハードルの高さのようなものがあるのではないかという仮説で、それを壁という表現を使ったということです。

**【丸山副座長】**

そうでしたら、私みたいに誤解をする人がいるかもしれないので、例えば、追加出生など、そういう言葉のほうが意図は伝わるかと思いました。

**【玉腰座長】**

確認ですけれども、今回のアンケートは、別に女性を大きく取り上げ、女性に厚くなるように調査をしているものではないですね。

**【田村未来創生担当課長】**

そうではないです。ウェブ回答で、例えば、最初に女性とクリックしていると、この女性のウインドウが開く感じです。ですから、スタートはみんな同じで、例えば、私だと、若者や女性に対する質問が出てこず、ありがとうございますと出てきます。例えば、岡田委員だと全部が出てきて終わりになります。

**【玉腰座長】**

だから、今、分析の軸が女性と若者を中心に行っているという理解ですね。

**【田村未来創生担当課長】**

それ以外の方のお答えも出てくるので、それはそれで別に集計します。

**【玉腰座長】**

ですから、別に男性の情報がないということではないのですね。

また、今のお話だと、無作為ではないということですね。でも、答えたい人が答えているので、そこに偏りがあるかもしれないということですね。

ほかにはいかがでしょうか。

**【浜中委員】**

話が出ていたかもしれないのですが、アンケート、モニタリング調査をする人たちはこれにも回答してもらおうということですか。それは取れないですか。

どういう人たちがどういうウェルビーイングなのか、今のところ、男性、女性しかこちらだと取れていないので、できればつないでいただいたほうがいいと思います。

**【田村未来創生担当課長】**

今は直接つながっていない状態です。

アンケート項目の中に子どもがいらっしゃる、いらっしゃらないは出てくるので、つなげたらよかったですね。

**【浜中委員】**

どういう状況の人がどういうウェルビーイングなのかをひもづけていくといいと思いました。

そして、仮にそこがひもづいたら、ここで取れたものをどう公開していくかも戦略的にやれるといいなと思いました。こちらだけだと分かりにくいので、今、札幌にはシマエナガが多いですよということが広報誌などでイラストにあると、自分事として札幌のウェルビーイングを上げていこうという機運ができていくような気がするので、うまくひもづくといいなとすごく思いました。

**【田村未来創生担当課長】**

現状、アンケートは既に配付しておりますので、今回のアンケートでは取れていないのですが、インターネット調査のときはできるかと思うので、検討させてください。次回以降、そういったものをひもづけられるように頑張ってみようと思います。

**【玉腰座長】**

時間が迫ってきていますので、雪対策の話についてご質問やご意見があれば伺っておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

これは、将来を見据えて、今、動きつつあるということですか。

**【山口委員】**

検討する主な内容について何点かあります。

札幌は世界の大都市の中でもこれだけ雪が降る都市はないと思っていますから、除排雪の課題もありますけれども、共生していかなければならないということで、進んでずっとそれをやってきている状況かと思っています。

今後の在り方で気になるのは生活道路かと思っています。当然、幹線道路でのバス等の運行のこともありますが、デイケアサービスのお迎えも含め、生活道路に入っていくことはまだあると思いますし、今後も続く状況であると思うので、その観点での除排雪体制の確保は考えていただきたいとすごく思うところです。

もう一つ、雪と共生していくための2番目に書いてある大雪のところでは、市民の皆さんを含め、どのような札幌の暮らし方の一つのパターンがあるのかも必要だと思っています。

2022年の大雪のときに感じた方も多し、私もそうだったと思います。会社の判断で今日は出勤しない、現実には除雪が追いついていないので、出られないという状況からの判断もあったと思うのですが、もう一つに市民の人命ということもあると思います。そういう観点も含め、大雪時はこうしたほうが良い、外出をしない、在宅勤務ができる方はそのようにということをして札幌市全体の中で形成できればいいのかなと考えています。

これは全体の協力ができないことだと考える一方、こういう機会にしっかりと打ち出していき、市民の皆さんの協力体制も含め、今後の形の打ち出しをしていくことが非常に大事ではないかと思っています。やはり、雪と一緒にというのが札幌のまちだと思いますし、共生という観点を考えていかなければならないと思っています。

#### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

#### 【浜中委員】

雪対策のことでお伺いします。

先端的なというか、衛星を使って遠隔でトラクターを動かしてみましようということなど、20年後や30年後を考えると、どこかで実験をしないといけないのだろうと思うのですね。

20年後に多くの退職を迎えますと書かれていますが、もう少し先に向けた投資として、今、どういう動きをされているのか、お伺いしてもいいでしょうか。

#### 【田村未来創生担当課長】

結論から言うと、現状では行政としてのそこまでの投資には至っておりません。

一方で、それこそ入澤委員が雪対策審議会の委員も兼務していただいておりますが、審議会でもそうした投資が大事だというお話や先端技術を使っていくことが大事なのではないかというご意見を頂戴して、私たちもそのとおりだと思っていますし、民間企業と連携し、どういったことができるのかということもあります。

今でも2人乗りのところを1人乗りにしましょうということのほか、いろいろなものをDX化していきましょうということをやっているのですが、もう一歩先のものがないと、人が減っていったときに新たなことができないかと思っていますので、それこそ5年、10年の間にどこまでいけるのかは一つの分水嶺なのかなと思っています。

#### 【玉腰座長】

今のお話、そして、どのようにこれから対策を立てていくかもそうですけれども、雪で出ないでくださいと言われたときに出ないで済む人たちと出なければいけない人がいるかと思えます。それから、出ないでいるとすごく弱る人もおりますよね。コロナのとき、ステイホームで非常に体調が悪くなった方たちがいらっしゃいますが、そういう弱いところにしわ寄せが行かないような工夫はしないといけないと思うのです。

点在している全部に届くのかなど、いろいろな問題があると思いますし、住み方から考えなければいけないということにもなってくるかと思いますが、いろいろな方が住んでいる中でどうやっていくかという視点で検討していただければいいのかなと私自身は思っております。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【入澤委員】

雪については、除雪のやり方のほか、財政の観点からの二つに分かれているのです。今、何でこの資料がここにあるのかですが、恐らく、除雪にもお金がかかるし、子育てにもお金がかかる、でも、お金は一つしかない中で、どこかでうまくバランスしていかなければいけないということなのではないかと思ったのです。

だから、みんなが雪を我慢してくれたら、その分、子育てのことを手厚くできる、デイサー

ビスに入れなくても、その分、子育てができるなどだと思うのですけれども、そうあってはいけないではないですか？そうあってはならないのですけれども、財政はそれぐらい厳しくなっているということを認識した上でどういったことをやっていかなければいけないのかを考えなければいけないのではないかと思います。

#### 【玉腰座長】

それでは、ここまでとさせていただきます、先ほど頭出しがありましたけれども、残っている国の動向について、事務局からご説明をお願いいたします。

#### 【田村未来創生担当課長】

先ほど話してしまったのですが、資料6です。先ほど申し上げました地方創生2.0の基本構想がこの6月に国から出ております。

後のほうで出てまいりますけれども、場合によっては、さっぽろ未来創生プランにその考え、あるいは、事業を取り入れて改定していくこともあるかと思っています。恐らく、年度が替わってからの話になるのではないかと思いますのですけれども、一旦、情報提供ということでお示しいたします。

資料の1枚目にありますとおり、目指す姿ということで、それぞれ3本柱があります。これまで約10年間やってきたものを地方創生1.0、そして、これからのことを地方創生2.0と定義しております。その基本姿勢や視点の大きな変わったところを赤字とアンダーラインで示しています。

例えば、人口減少への認識の変化についてです。これまで、国としては、歯止めをかける、人口減少を緩和していきましようということだけをうたっていましたが、2.0になると、正面から受け止め、適応するという話が出てきたことが一つのポイントかなと思っています。さっぽろ未来創生プランでは緩和と適応という2本柱で既にやっておりまして、これについては、本当に文字どおり、沿っていると思っております。

それ以外としては、先ほど申し上げましたとおり、若者、女性が地方に残りたい、戻りたい、行きたいと思う地域づくりです。例えば、札幌市の20歳代の転出超過数の内訳を見ますと、女性のほうが男性よりも転出数は多いのです。そう考えると、女性に残ってもらうということは一つあるのかなと思っております。

もう一つ、5番目ですが、今まで、都市と地方の立ち位置というか、在り方の中で移住支援を中心に国では取り組んできました。しかし、移住というのはハードルが高かったということがあります。また、移住によって、地域間競争といいますか、取り合いになってしまったという反省が、私たちもそうですし、国にもあったということです。

ですから、これからは、移住もさることながら、関係人口、要は、都市にいながらにして、札幌やほかの道内のまちと関係を持って、その地域の課題解決をしていく人材にアプローチしていくことが定義されています。

裏面に行ってくださいまして、政策の柱や地方創生2.0示した役割です。

先ほどと同じで、市町村の役割のところの色を変えておりますけれども、少なくとも、地方創生に関し、私どもがリーダーシップを取っていかなければいけないということは間違いなくあると思っています。

その中で、多様なステークホルダーです。ここでは若者、女性と書いていますけれども、先ほど申し上げましたとおり、企業など、いろいろな方々と一緒に取り組んでいくことが大事なのではないかと思っております。

割愛しまして、次のページです。

これから地方創生2.0でこんな政策を考えていまいしょうということが政策パッケージという形で示されているのですけれども、その中で、さっぽろ未来創生プランになく、仮にそれを実施していくのであれば、未来創生プランの中に入れ込んでいく必要があると思っているものを大きく三つほどピックアップいたしました。

一つ目は、政府関係機関の地方移転です。

十数年ほど前、京都市に文化庁の機能が一部移転しました。今回、その令和版をやりますと

言っていたのですけれども、どうなってしまうのか、少なくとも、今、国からは何も連絡が来ていない状況です。

二つ目は、関係人口の点です。

ふるさと住民登録制度といいまして、先ほど言いましたとおり、アプリのようなもので、例えば、東京にいる人が札幌のふるさと住民になるというもの、あるいは、何かしらの情報が届く、マッチングして課題解決をするようなシステムをつくるという話があります。まだ姿が見えていないのですけれども、ある程度の姿が見えてきたとき、札幌市としてどんなことができるのかを考える必要があると思っております。

三つ目は、広域リージョン連携です。

都道府県域を越えて協働していきましようということです。今まで、県内や県をまたいだ市町村間の連携はいろいろな制度であったのですけれども、都道府県間で連携していこうというものです。北海道は大きいのですけれども、例えば、東北だったら東北の何県か、関西だったら関西の府県か、中国地方だったら中国地方の何県かという感じで連携をやっていきましようということが国から示されており、既に広域リージョンの枠組みといいますか、制度がもう動き始めているところです。

北海道は、東北と連携といってもなかなか遠いので、単独の枠組みが認められているのですけれども、そうなってくると北海道庁と市町村との間で何をしていきましようかという話になってくると思っておりますし、北海道庁とも連携を取りながらやっていくことになると思っております。

最後のページ、今後の進め方です。

繰り返しますが、今、私どもが聞いているのは、年内に総合戦略が国から出てきて、それに合わせて改定をしていく必要がありますという話です。仮に違う形で出てきたとしても、恐らく地方創生に何かしらの影響はあるのかなと思っております。下にある今の話とは違うことになるのかもしれませんが、新しくこんなことをやります、それを未来創生プランの中でこう位置づけます、こうやっていきますというものを皆さんにお諮りし、議論していただいて、ご意見を頂戴するという場面が出てくるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

#### 【玉腰座長】

それでは、今話していただいた内容について、ご質問やご確認などがあればお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

#### 【入澤委員】

政府関係機関の地方移転ですが、札幌市として何を持ってきたいと思っているのですか。

#### 【田村未来創生担当課長】

10年ほど前、北海道庁と連携し、観光の部門が来てくれないですかということで手を挙げました。また、防災の拠点のようなものにも手を挙げたのではないかと思います。

今はまだ整理されていませんし、国からも連絡等来ていないので、何とも言えないのですけれども、やはり、今力を入れているGXの部門、あるいは、今このようにやっている人口減少対策の部署がもし可能であればという話をするようになると思われているところです。

#### 【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

#### 【入澤委員】

もう一つ、広域リージョンについてです。

札幌市の周りの12市町村といろいろとやっていたと思うのです。結局、札幌市はいいのだけれども、周りは道庁の顔が気になって札幌市のようになかなかうまくできないという実情を聞いています。それができるようになると変わってくる見込みがありますか。

【浅村まちづくり政策局長】

さっぽろ連携中枢都市圏の取組は、まちづくり政策局の中の別のセクションでやっていますが、道庁との関係と水平連携をうまく組み合わせながらやっていると私たちは思っています。ただ、振興局の単位を超えるのですね。そうした自治体は、その振興局の中心都市でもあるということがあって、そことの関係性はどうしても維持しながらということになっていると思います。

今回、国で言っている広域リージョンは、昔に議論をしていた道州制とは違うのですけれども、割とその議論を受け継いでいるのかなと僕は思っています。結局、北海道はどこまでいっても北海道なので、広域リージョン連携とは切り離されているのかなと思います。

市町村間連携の枠組みについては国でもトライしながらやっていますが、連携中枢都市圏の取組といいますか、道央圏が北海道のほぼ半分の人口を抱える地域になっていますので、北海道の経済や社会を道央圏で支えていく、牽引していくということになるのかなと思っています。

【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

【岡田委員】

移住ではなく、関係人口を増やすというのは私もいいなと思います。学生にどうして北海道を一回出ようと思うのかと聞きますと、北海道にいと北海道で一生が終わるのではないか、ほかのところへの行き来がしにくいという独立性が懸念材料になっているのかなと思うので、関係人口を増やすということはいいと思いました。

実際、私は石川県出身ですけれども、謎に石川県の学校は修学旅行で北海道に来るところが多いのです。北海道大学を見学しますし、私もそれで北海道大学に入ってきたことがあります。

修学旅行で、一度、北海道を訪れ、魅力に感じて、その後、第2のふるさと候補に挙がってくるというのはあり得ることかなと思うので、ぜひ頑張ってくださいと思いました。

【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

ふるさと住民登録をする、関係人口が増えると何がよくなりますか。

【田村未来創生担当課長】

最終形といいますか、想定しているのは、それこそ都市にいながら、札幌だと大き過ぎだと思ってしまうのですが、もう少しローカルなまちで、何かしらの技術力がそのまちにはないのだけれども、その技術を持っている人が東京にいて、その方が行くでもいいし、ウェブなどで解決する、あるいは、イベントや盛り上げをやる時に外からの力でやる、実際に関係人口となっている人が行って手伝うというようなことがあるかなと思っています。

つまり、人口が増えなかったとしても、何かしらの形でその地域なり市町村なりの課題が解決できるようになるということです。ですから、適応の取組になるのだと思います。人が減っていったとしても、そこに人が少なかったとしても、何らかの形でそのまちの課題といいますか、問題を解決できるようになっていくことが最終形のイメージなのかなと思います。

【玉腰座長】

一番基本的なところを確認させていただきました。

ほかにいかがでしょうか。

【浜中委員】

ふるさと住民登録制度は外国の人はできないのですか。

【田村未来創生担当課長】

示されていないですけども、外国人市民も市民になりますので、そこに差はないのではないかと思います。ただ、海外と日本という形ではないと思います。例えば、東京に住んでいる海外の方が札幌のことをということは問題ないのかなと思います。

【浜中委員】

北海道における札幌という立場では、海外の人たちの関係人口づくりのようなことに力を入れられると役割を果たせるかなという気がしました。今のところ、来て、帰ってしまうので、その後の何かが計画できたらいいと思いました。

【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

【吉岡委員】

感想めいたことしか言えないのですけれども、地方創生2.0を踏まえて、政府関係機関の地方移転、関係人口の量的拡大・質的向上、広域リージョン連携という三つを位置づけてということですね。ここから引っ張ってきて、このような可能性を探るということではよろしい視点かなと思います。でも、すごく大ざっぱな言い方ですが、もう少し札幌らしさを打ち出し、やっていくことが出せないかしらと思います。

未来に向けて気持ちが高まっていくような感じになっていないように思うのです。少し前に札幌でオリンピックがあるかもしれないというお話もありましたが、どうやら、なくなりましたよね。それで新しくいろいろなスポーツチームが来るかもしれない、スタジアムができるのかしらと思っていましたけれども、それもどうなのかという感じです。

人口や将来展望を考えると、ほかの都市や地域には負けないものがあって、若者が喜んで全国から集まるようになっていいなと思っているので、そういう方向でチャレンジしていくものがもっと浮き上がってくる感じになっていいなと思っています。

何か、すごく漠然としたものですけども、そう思っています。

【玉腰座長】

ほかにいかがでしょうか。

どうせやるならこれもやってというような話も含め、何かあればと思います。

【丸山副座長】

私もコメントのような感じになるのですが、先ほどの関係人口はどうなることが理想的かということで田村課長が説明に大変難儀されていましたが、それが社会全体の認識なのだろうと思うのです。よく分からないというのが本当のところだと思うのです。住民ではない、観光客でもない、いわゆる交流人口ではない中間層で何とかしろというようなニュアンスをすごく感じるのです。移住はできなかった、そこで、移住まではいかないのだけれども、観光ではない人たちにフォーカスしなさいということを国が自治体に丸投げしているようにも見える状況だと思うのです。

地方と都市という非常に大きな枠の中での人の動きや関わり方を念頭に置いているのですが、札幌はどちらの立場にもなり得る状況ですね。人がすごく減ってしまって、観光でもあまりうまくいかなかった地域が最後の手段として考えているような面が少なからずあると思うのです。そういうところにとっては、都市的な地域から関係人口が来ることはプラスですけども、そうした都市の方からすると、その地域にいるはずの課題解決を担う人のコミットが少なくなってしまうというデメリットにもなると思うのです。ですから、札幌市にとって関係人口がどういう位置づけになると最も市民生活に対してプラスになるのかを独自に考えて定義づける、地域がいろいろな多様性を持つ中で自治体独自の考えを表に出していくということが大事なのかなと思いました。

**【玉腰座長】**

非常に活発にいろいろとご意見をいただきまして、ありがとうございます。  
そのほか、全体を通じて何かご質問やご意見などはありませんか。

**【高橋委員】**

少し戻るのですけれども、資料4のモニタリング調査についてです。

人口減少の四つの壁とあったと思うのですが、先ほど、第2子の壁は、第2子以降の話ということでしたよね。実際にどんなインタビューを行い、どんな項目を使って分析していくのかはまだ出ていないので、分からないのですけれども、実際に私もお母さん方にアンケートを取って聞いてみました。第1子がいて、第2子以降を考えていますかという質問に対し、はいが46票、いいえが28票で、どちらかという欲しいと考えているお母さんが多いのだなと感じました。

ただ、持ちたいけれども、現実的に第2子以降を持つことが難しいという声も非常に多いのです。もちろん、経済的なこともあるのですけれども、例えば、お産の入院のときやつわりのとき、上の子を預ける、見てもらう環境がないというような環境によることでなかなか踏み出せない方がいらっしゃいました。また、子どもにきょうだいをつくってあげたいのですけれども、産後が怖くて勇気が出ないというようなお話もありました。第1子の産後に結構限界まで頑張りが過ぎてしまった経験が影響しているのかなと実際の声から感じました。

このように、具体的にどんな理由で第2子以降を断念しているのかが見えると、インタビューの効果があるのかなと感じたので、そこを調査していただけたらうれしいなと感じています。

**【玉腰座長】**

ほかによろしいでしょうか。

佐保田委員は今日が初めてのご参加ですよね。多分、この雰囲気になかなか口が出せなかったのではないかと思います。一言、いかがでしょうか。

**【佐保田委員】**

発言しようか迷っていたのですけれども、最後に機会をいただきましたので、申し上げます。

最初のほうに戻ってしまうのですけれども、第2期さっぽろ未来創生プランの実施状況の分析を拝見しますと、細分化された指標のKPIを追い、上がった、下がったという評価をしているのですけれども、それによって浮き彫りになる札幌市の特徴や社会環境というか、置かれている状況、経済状況をトータルに分析されていないのではないかという気がしました。

というのは、資料2の3ページの総括についてです。

例えば、合計特殊出生率が一貫して減少傾向、道外への転出超過の数が改善した、そういった数値の増減についてはコメントがあるのですけれども、例えば、転入元というのでしょうか、道外、あるいは、道内のどこのまちから来て、それと比べて超過が大きいということですが、もしかしたら差分は転入のほうが少ないなど、そういった分析がないのです。

あるいは、合計特殊出生率も全国に比べても低いと思うのですけれども、同じぐらいの政令市と比べて何が違うのか、施策の何が違って、札幌市はこういう特徴的なまちであるので、こういうことが問題であると仮説として考えられるという分析が定性的にあったほうが大づかみにこのまちはどういうところが足りないのかが分かるかと思います。産業構造として支店経済などとよく言われますけれども、そういったものを大づかみに分かると、優先順位をつけて何の施策をやるべきかがもうちょっとクリアになるかなと思います。

これを見ると、並列的に指標が並んでいて、その優劣が私の中でうまくつかないなという印象を受けたので、何かのご参考になればと思います。

**【田村未来創生担当課長】**

そのあたりを今回のモニタリングでもう少し浮き彫りにできればと思っているところです。

**【玉腰座長】**

それでは、そろそろ時間にもなりましたので、これで閉会とさせていただきたいと思えます。

本当に、毎回、皆様からいろいろなご意見をいただけて、大変参考になることと思えますけれども、参考になったと聞くだけではなく、市としては、ぜひ実際に取り入れて、具体的に動いていただきたいです。また、前にも出ていましたけれども、市だけが頑張るのではなく、団体や教育機関など、いろいろなところとつながり、札幌市がより元気になるようにしていただければと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

皆様、どうもありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

**4. 閉 会**

**【砂田政策企画部長】**

玉腰座長、本当に会議の進行をありがとうございました。また、委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

最後に、事務局を代表し、まちづくり政策局長の浅村よりご挨拶を申し上げます。

**【浅村まちづくり政策局長】**

改めまして、長時間にわたり、本有識者会議にご参加をいただき、ご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。

本日は、いろいろな話題がございました。

まず、K P I、数値目標についてです。我々は、いろいろな計画を立てるのですけれども、いつも悩んでいるものです。事業の投入量を増やせば確実に上がるもののほか、社会情勢など、我々がコントロールできない中で数値をモニタリングしなければいけないものとの大きく二つに分かれます。社会情勢などのいろいろな要因が入ってくるものについて、どのような事業を投入するか、もしくは、組み合わせることによって上げていくのかは常に悩みながら政策をつくっている状況です。

ただ、社会情勢や社会規範がその数値にどうしても効いてきてしまい、その時々々の社会情勢によって変わってくるものもありますので、少し長期的に見ていくということが必要になります。

また、今日お話をいただいたとおり、分析をする、深掘りして枝分かれさせる、ロジックモデルをつくるということもこれから検討しなければいけないのかなと思いました。

そして、現在取り組んでいるモニタリング調査についても随分とご意見をいただきました。改善できるところについては改善をしながら進めていきたいと思えます。

それから、ウェルビーイングについては今走り出したところで、まだまだ改善の余地があります。今日もいろいろと貴重なご意見をいただいたので、これを参考にブラッシュアップし、市民一人一人が自分事として考えていただけるようなものにしていきたいと思えます。その状況については、逐次、ご報告したいと思えます。

さらに、関係人口の意義といいますか、どのように捉えるのかです。これは、深掘りといいますか、分析をしていく必要があるのかなと思いました。我々内部でいろいろな議論をさせていただき、表に出せる説明ができるようにしていきたいと思えます。

人口減少対策、さっぽろ未来創生プランの推進に当たりましては、今日ご参加をいただいているいろいろなセクターの皆さんと協力、連携しながら進めていくことが重要ですので、今後も様々な形でご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。

改めまして、委員の皆様におかれましては、プランの推進に向けて引き続きのご助言、ご協力をお願いいたします。

本日は、お忙しいところ、誠にありがとうございました。

【砂田政策企画部長】

以上をもちまして令和7年度第1回さっぽろ未来創生プラン推進有識者会議を終了いたします。

皆様、本日はどうもありがとうございました。

以 上